

# 山形県環境教育推進協議会 委員意見概要

日時：平成 26 年 8 月 27 日（水）

午前 10 時 30 分～午前 11 時 40 分

場所：村山総合支庁本庁舎 601 会議室

## ◆環境科学研究センターを中心とする環境エネルギー学習拠点機能の活用・拡充について

### ＜環境科学研究センターの学習機能について＞

- ・子どもだけでなく、保護者を巻き込んで親子一緒に考えて学ぶ、ということを広げていかないと環境教育は根付かないと思う。親子行事などで環境科学研究センターを活用してもらえるよう、PRしていくべき。
- ・環境科学研究センターには、資料や書物、データ等が多く揃っていて、小中学生だけでなく、高校生や大学生にとっても勉強になる場所。有効活用してもらえるよう、もう一步PRが必要。

### ＜他施設との連携について＞

- ・小学校の社会科見学で実施する企業見学では、見学コースのなかで省エネの取組み等が紹介されることがある。環境科学研究センターだけでなく、環境学習支援団体に認定されている企業に協力を求めるなど、官民一緒になって取り組むことが必要ではないか。
- ・博物館や水族館など他の施設と連携を進める視点も環境教育につながると思う。
- ・話を聞くだけよりも、実体験から学んでいく方が子どもたちの吸収が早い。県民が参加できるような、グリーンツーリズムならぬ“環境ツーリズム”があってもいいのではないか。
- ・(旅行のツアーパックのように) 環境科学研究センターと周辺施設を巡るモデルコースをいくつか設定し、センター職員等が説明を行うバスツアーのようなものを企画してはどうか。

## ◆環境教育教材の活用

- ・山形県環境教育指針が今年 3 月に改訂されたが、教育現場の先生はほとんど知らないのではないか。同時期に県が作成した環境エネルギー学習読本についても、実際に授業で活用されるまでには至っていない状況。実際に授業で読本を活用した事例を県に集め、情報を共有してはどうか。教育現場の先生が実際の活用事例を知ることが、読本の活用につながり、また指針の実践にもつながると思う。
- ・また、モデル事業として、環境エネルギー学習読本を活用した授業を実施する学校に補助を行うなど、予算的な支援も必要だと思う。

## ◆環境アドバイザー等の人材派遣

- ・出前講座等を利用したことのある学校や先生は、その後もくり返し利用するケースが多い。まずは出前講座等について知ってもらい、一度利用してもらうためのPRが必要。
- ・「こういうプログラムで、こういう流れで、こういう参加者で行った」という事例を事例集にまとめてPRすると、先生も具体的な活用のイメージがわくのではないか。

## ◆その他意見

- ・学校には、地域と連携して学校運営を行っていく体制がある。そのなかで「環境教育」という視点を持ちながら、また環境科学研究センターとも連携しながら進めてほしい。
- ・環境教育は幅広く、どこにでも環境教育への入り口がある。県の他の部局を巻きこんで、どのような活動が行われているのかを把握し、評価していくことが大事。
- ・今後、環境エネルギー学習読本や環境教育指針の普及・活用状況を把握・評価し、更なる活用につなげていくことが必要